

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 しろくま 組	4 月 9 日 (木)	小林

● 実施計画

活動テーマ		
サイエンス ～自然～ 公園にあるものをしらべよう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
様々な図鑑を見ることが見られてきた。戸外では、自然や生き物に興味を持ち手に取って観察を積極的に行う姿が見られる。色や形を見て友だちや保育者に共有する姿が見られた。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:15	・前回、調べたものや収集したものを振り返る。 ・更にどのように調べたのかも振り返る。 ・今日の図鑑や地図作成のイメージ、必要な素材や持ち物について話し合い、目的地の公園を選定し、持ち物の確認をする。 ・子どもたちの意見をホワイトボードにまとめる。	【環境設定】 ・公園や園庭など、安全に探索できる場所を選定する。 ・公園内のルールを確認する。 ・事前に探索ルートを決め、安全面に配慮する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。
10:15～10:45	・公園へ移動しながら、周囲の自然物も注目できるようにする。 ・公園到着後、それぞれの興味に沿って、気になる植物や落ち葉、石などを探し、図鑑に記録する方法(写真撮影または持ち帰り)を確認する。 ・友達同士で観察しているものを共有したり、見つけたものを保育者に聞きに行く姿が見られる。 ・どれを持ち帰り、どれを写真で記録に残すのかも決めながら探索する。	【活動使用教材】 ・ポケット図鑑 ・ペットボトル(枯れ防止) ・収集したものを入れる袋 ・かばん(図鑑を入れるため) ・スマートフォンやデジタルカメラ ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー 【事前準備】 ※ ①と同様 ・植物が多くある公園や場所を選定する。 ・子どもたちが日頃からポケット図鑑に触れる機会を作る。 ・スマートフォンやデジタルカメラのバッテリー残量を確認しておく。 ・探究活動に使用する用具(ポケット図鑑、かばんなど)使用方法をあらかじめ設定しておく。 ・絵本の作り方を調べておく。(綴じ方) ・図鑑見本に載せる植物や写真を用意しておく。 ・図鑑用の冊子見本を作成しておく。
10:45～10:55	・公園内で決めて見つけたものや観察したものを共有しあう。 ・友達の意見を聞いて思ったこと、気づいたことを発表する。	

	・集めてきた材料を保管する。	(3～4ページ) ・ 図鑑用の台紙、冊子にするための製本テープ ・ セロテープやのり ・ 筆記用具(鉛筆、色鉛筆、カラーペンなど)
--	--	--

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・前回の活動内容の振り返りから始め、子どもたちは、見つけた自然物を思い出しながら、図鑑や地図にどのように記録するかを話し合った。 ・目的地の公園へ移動し、到着後は各自が自分の「気になるもの」を探していく。 ・公園では、スマートフォンやデジタルカメラで撮影しつつ、実際に植物や石を手に取り、その特徴を観察して調べ、記録していった。写真をその場で確認し合いながら「この色はどうしてこうなっているのかな」と話し合う姿が印象的だった。 ・持ち帰る素材と写真で、図鑑作成の素材を収集し、実践的な活動を行っていく。 ・友達や保育者との共有する際に発表をする練習も含めて行った。	【子どもの姿・声】 ・色や形に興味を持ち違いや同じ葉や花でも違いに気づく姿が見られた。 ・「これ、前に見たやつと違うよね。」と友だちに意見を交換する姿があった。 ・図鑑や絵本で見たことあるものを見つけると「これ見たことある」「図鑑にあったよ。」と共有する姿が見られる。 ・持ち帰る植物を決める際に、「この石、面白いから図鑑に貼ろう！」と自発的に提案していた。 【保育者との関わり】 ・活動開始時、「前はこんな発見があったね。今日も新しい発見をしよう。」と声をかけ、前回の様子を思い出すことができるようにした。 ・保育者が知っている知識を子どもたちに伝え、更に自然への興味と観察の楽しさを伝えた。 ・公園で「これはどうしてそうになっていると思う？」と問いかけ、子どもの観察を促していった。 ・子ども同士の会話を見守りつつ、気づきに対して「よく気づいたね。」と肯定し、各自の意見をホワイトボードにまとめることで、みんなで共有する機会を作った。

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
・自然の中でそれぞれの視点からさまざまな発見をすることで、観察力や記録する意欲が育まれることを実感した。 ・活動中、子ども自らが問いを立て、友だち同士で意見を交わす姿が見られ、正解にこだわらず自分なりの考えを大切にする雰囲気生まれた。 ・また、振り返りの場では「どんな風に図鑑にしようか？」という意見も出るなど、次回以降の図鑑や地図づくりへの展開が期待できると感じた。 ・保育者がそっと寄り添い、問いかけや確認を行うことで、子どもが安全かつ主体的に活動できる環境を整えることの重要性を再確認する機会となった。	子ども達が自ら問いを立て、対話を通じて自分たちの世界を広げている様子が伺えました。 保育士が子どもたちの心の軌道線に寄り添い、適切な環境を整えてサポートを、子ども達は安心して「自分の意見」を外に出せるようになっていく。

R7 年 8 月 探究保育 活動報告書 キッズガーデン足立綾瀬

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 しろくま 組	10 月 3 日 (金)	小林

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ～野菜～ 野菜はどこにできるの？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
給食で出てくる野菜について、「これってどこで育ったの？」と話す姿があり、野菜の育ち方やできる場所に興味をもち始めている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:10	・前回の活動を振り返る。	【環境設定】 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 ・正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。 【活動使用教材】 ・野菜カード ・野菜の絵本 ・野菜の図鑑 ・動画 ・iPad、タブレット、PCなど(保育者が調べるために使用) ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー 【事前準備】 ・野菜カード ・子どもたちが興味がある野菜ができるまでの動画を調べておく。 ※協力していただける野菜農家の方がいる場合、直接話を伺ってもよい。
10:10～10:30	・野菜がどうやってできるのかを考えてみる。 ・野菜ができるまでの過程を知る。 ・土の中で育つ野菜と土の上で育つ野菜があることを知る。	
10:30～10:40	・野菜カードの中から、野菜を選び、土の中と土の上、どちらで育つ野菜なのか考える。 土の中で育つ野菜の共通点、土の上で育つ野菜の共通点をかんがえてみる。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・前回の活動内容の振り返りから始め、子どもたちが自分の体験や気づきを言葉にすることで学びを整理し、次の探究への関心を高める。 ・野菜がどうやってできるのか考える、野菜ができるまでの過程を知る。 ・土の中で育つ野菜と土の上で育つ野菜があることを知り、どこに育つ野菜であるのか探究を深めた。 ・「みんなで見つけた水を地図にしてみようか」と提案し、子どもたちの経験を可視化しながら共有する時間を設けた。	【子どもの姿・声】 ・土の中にできる野菜と土の上でできる野菜を自分なりに分類しようとし、「にんじんは土の中だね」とこれまでの経験や記憶と照らし合わせて考えていた。 ・友だちと話し合いながら、「これ、間違えてた！」「やっぱりそうか！」と答え合わせのようには確かめ合い、学び合っていた。 ・図鑑を見て、知っている野菜やスーパーで見た野菜を共有していた。 【保育者との関わり】 ・子どもたちの分類の様子を見ながら、「どうしてそう思ったの？」「他に同じ場所にできる野菜はあるかな？」と問いかけ、思考を深めるサポートを行った。 ・図鑑や前回見たものを思い出して、答えを導き出せるように一緒に考えた。 ・「それは掘ってとる野菜だね」「これは枝からとるね」といった言葉を補いながら、表現の幅が広がるよう促した。

● 振り返り

保育者側の気づき	園長からの感想・助言内容
・子どもたちはこれまでの生活経験をもとに、野菜ができる場所について自分なりの考えをもっていることに気付いた。 ・“土の中”や“土の上”という表面的な区分だけでなく、「なぜその場所で育つのか」「見えないところにあるのはなぜか」といった問いに発展する姿も見られ、探究心の深まりを感じた。 ・カードを見て分ける姿や疑問に思ったことは友だちや保育者に共有をしていた。 ・野菜カードを見て以前スーパーで見たものを覚えていた。野菜のカードとの違いなどにも興味を示していた。	目に見え部分だけでなく、土の中にある“見えない世界”に対して「なぜ？」と問いを立てられる点、子どもたちの思考の余白を先生が大切にしてきてくれた成果であることは、子どもたちの想像力が育っている証だね。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 しろくま 組	11 月 27 日 (木)	小林

● 実施計画

活動テーマ		
アート～色のふしぎ～ 5つの色から虹をつくろう		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
これまでの活動で親しんだ色を使い、『赤と青を並べたらきれいだね』『虹にはどんな色があるかな?』とイメージをふくらませている。友だちと色をつなげたり並べたりしながら、色を組み合わせてひとつの世界をつくりあげる喜びを感じている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00～10:15	・混色のやり方を振り返り、虹の色について話し合う。	【環境設定】 ・子どもたちが自由に絵の具を使いながら、安心して色作りに挑戦できるスペースを確保する。 ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 【準備物】 ・虹の見本の絵 ・絵の具で描いた虹の絵 ・絵の具(赤、青、黄色、白、黒) ・パレット ・筆 ・画用紙 【事前準備】 ・わかりやすいように事前に見本の絵を描くか保育中に一緒に描けるようにしておく。 ・市販の絵の具で描いたバージョンも比較の為に描いておく。
10:15～10:25	・「虹の色って何色?」「どうやって作る?」と問いかけ、興味を引き出す。 ・虹を描く7色を準備する。 ・「どの色をどう作る?」と考えながら色を作る。	
10:25～10:45	・作った色を使って、見本を見ながら順番に色を塗ってみる。 ・「順番を間違えないように気をつけよう」と声をかける。 ・自分で作った色で描いた虹と、市販の絵の具で描いた虹を比較する。 ・「何が違う?」「どうして違うの?」と考える時間を作る。	
	・完成したステンドグラスに日光や懐中電灯を当て、どのように光を通すか観察する。 ・色を作ることの難しさや、きれいに作れた色について発表する。	
	・「どうやって作った?」「工夫したことは?」と振り返る。 ・みんなで描いた虹を見比べる。 ・「同じ虹でも、それぞれ少しずつ違うね」と話し、オリジナルの色の面白さを感じられるようにする。	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
子どもたちは、これまで学んだり、経験したりした混色の知識を活かしながら、自分で作った色を使って虹を描いた。「この色とこの色を混ぜたら何色になるかな？」と試しながら、色作りに挑戦し、楽しみながら活動を進めていた。特に、同じ色を作ることの難しさや、思った通りの色にならなかったときの驚きを感じる場面が多く見られた。	【子どもの姿・声】 ・「赤と青を混ぜたら、思ったより濃い紫になった！」「このオレンジ、ちょっと黄色が多かったかな？」「みんなの虹、ちょっとずつ違ってておもしろい！」などそれぞれの気づきを発言する様子が見られた。 【保育者との関わり】 ・「どうしたら思った色になるかな？」と問いかけ、子どもたちが自分で考える時間を大切にした。また、「白を混ぜるとどうなる？」「黒を少し足したら？」などの声かけを行い、色作りの試行錯誤をサポートした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・子どもたちは、自分で色を作ることに大きな関心をもち、試行錯誤しながら取り組んでいた。 ・同じ色を作ることの難しさや、思った色にならないことも楽しみながら受け入れる姿が見られた。 ・「もっとこんな色を作ってみたい！」と、活動の後も色作りに関心をもち続ける様子があった。	試行錯誤の末に生じた「自分だけの特別な色」と、それをどうにか記録する仕組みを作ってみてはいかがでしょうか。 自分の発見が“レシピ”として開けられることで、思いが整理され、再現する楽しみも生まれるかもしれませんね。